

多角的な鑑賞指導を目指した指導の実践

～交響曲第5番 ハ短調(L.V.ベートーヴェン 作曲)を主教材とした実践～

大仙市立西仙北西中学校 佐藤 敦

1. はじめに

(1) 学習指導要領における鑑賞の学習内容について

第1学年における鑑賞の学習内容では、「感じ取って聴く」ことが、第2, 第3学年においては「理解して、楽曲全体を味わって聴く」となっている。これは楽曲の美しさやその響きを「感覚的に」味わわせることが中心であったものが、発達段階に応じてより細部に渡って「意識的に」聴き取らせたり、楽曲構成を理解させることが重要になってくることを示していると考えられる。

学習指導要領における音楽科の目標においては、「音楽を愛する心情」が「表現および鑑賞の活動を通して」と連なって示されており、「音楽を愛する心情」を醸成する上で「感覚的」な面ばかりでなく、「知識・理解」の面も重要視されているととらえることができる。

(2) 学習指導要領と教材の関わりについて

ここで取り扱う「交響曲第5番ハ短調」は、その楽曲構成や形式の理解が重要な学習要素と考えられるが、そういったことを理解させるために単に知識のみを一方的に教授するのではなく、何らかの体験的活動を通して興味付け・動機付けを図ることが必要であると考えた。

本作品の冒頭部分は大変有名であるので、リコーダーアンサンブルによるその冒頭部分の演奏と指揮の体験を導入を行うことにより、興味付け・動機付けを図ってみたい。このことは本作品の中心動機とその構築美の理解を演奏体験によってより深めることも目的としている。

2. 実践の実際

(1) 目 標

1. 作品を通して、楽曲構成の基礎を理解させる。
2. 器楽アンサンブルを通して、オーケストラへの興味や、指揮者の役割への理解を深めさせる。

(2) 指 導 計 画 (総時数4時間)

第1次	冒頭部分をリコーダーアンサンブルによる演奏と指揮で体験させ、本作品への関心を持たせる。	2時間
第2次	第1楽章を聴き、ソナタ形式の構成や、本作品全体を支配する動機の存在について理解させる。	1時間
第3次	第2楽章～第4楽章を聴き、作曲者であるベートーヴェンについての関心と共に、この作品への親しみを深めさせる。	1時間


- ・第1次について → 導入として、曲の冒頭部分を聴き、曲名や作曲者名について知っていることを答えさせる。この部分の楽譜がどうなっているのかを考えさせると、最初に8分休符があることに気付く生徒は少ない。

(3) 授業実践例 (第1次1/2)

①ねらい

第1楽章の冒頭部分のリコーダーアンサンブルや指揮を通して、主題を構成する動機に気付き、また、オーケストラの各パートの役割や指揮者の役割に関心を持つことができる。

②学習過程

学 習 活 動	形態	支 援 ・ 評 価	資 料
1. 第1楽章の冒頭を聴き、曲名、作曲者についてなど知っていることを話し合う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な知識の確認程度に留め、詳細については次時にふれる。 	LD
2. リコーダーアンサンブルによる第1楽章の冒頭部分を練習する。	個 ↓ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> 中心動機のリズムに注意して練習させる。 生徒の指揮でもアンサンブルしてみる。 VTRの指揮に合わせてのアンサンブルも試みる。 	楽譜
	一斉	<ul style="list-style-type: none"> アンサンブル楽譜から、第1主題は同じ音型の連続であることに気付かせる。 資料集の楽譜などから、中心動機が楽章全体を支配していることに気付かせる。 	教科書 資料集 LD
3. 第1楽章の冒頭部分について気が付いたことを話し合う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 対照的な第1・第2主題や、それらの展開がソナタ形式の構成に関わってくることに触れておく。 	
4. 第1楽章を鑑賞する。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>中心動機のリズムが各パートに現れていることに気付き、それらの組み合わせの妙を感じ取ったか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心動機の絶妙な組み合わせり方や、第1主題・第2主題とそれらが展開している部分を聴き取ることができたか。</p> </div>	
5. まとめと次時の予告。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 次時はソナタ形式の構成や、中心動機の現れ方の実際について学ぶことを伝える。 	

Symphony No.5 Op.67

for recorder quartet

L.van Beethoven(1770-1827)

Alligre con bris $\text{♩} = 120$

Soprano
(ソプラノ)

Alto 1.
(ソプラノ)

Alto 2.
(ソプラノ)

Alto 3.
(チェロ)

The first system of the musical score shows the initial four measures. The Soprano part (top staff) begins with a forte (*ff*) dynamic, playing a rhythmic pattern of eighth notes. The Alto 1, 2, and 3 parts (middle three staves) follow with a piano (*p*) dynamic, playing a similar rhythmic pattern. The music is in 3/4 time and D major.

The second system of the musical score shows measures 5 through 8. The Soprano part continues with a forte (*ff*) dynamic, while the Alto parts continue with a piano (*p*) dynamic. The music features various rhythmic patterns and dynamics, including a crescendo leading to a forte (*f*) dynamic in measure 7.